



## ～社会・松島先生の公開授業～

授業後に松島先生へ授業の構成について意識していることは何かあるか、と聞くとある話を聞くことができました。「落語に基づいて授業を作っている」と。

### ①落語を意識した授業構成

そもそも落語とは3つの展開を基に作られています。

落語	授業	松島先生の実践
マクラ	導入・つかみ	復習で既習事項を確認させ、Hプリント（本時でとりあつかう重要単語を予習でしらべさせる課題）で本時への橋渡し
本題	展開	段階的に情報を提示し、考えを深めさせる
サゲ(オチ)	まとめ・振り返り	まとめを自分で考えさせ、定着へとつなげる

※その他の落語との比較

### その時々での教師側のアクションの変化

- ・落語：客の反応を見ながら間を取り、テンポを調整
- ・授業：机間指導や発問で理解度を確認し、説明の濃淡を調整

### ゴールの明確さ

- ・落語：サゲ（オチ）に向かって無駄なく話を運ぶ
- ・授業：めあて「大化の改新で目指した国づくりとは」に向かって教師が補足説明しながら授業をすすめる

もちろん、松島先生の授業に組み込まれているエッセンスはそれだけではありません。

歴史の出来事や人の行動（選択）を自分ごとで考えさせる機会を作っています。「歴史」を勉強するうえで、単に史実だけを追うのではなく「自分だったら」という視点で考えることで思考が始まり、より授業に集中できるようになる。という仕掛けです。

ほかにも「面白そう」と思わせる雰囲気や課題・出来事を選んで授業を作っている、という仕掛けもあります。

これは今まさに次期指導要領の改訂で注目されている「学びに向かう力・人間性」の「初発の思考や行動を起こす力」つまり「好奇心」です。「面白そう」と思うことで興味を持ち、好奇心が生まれ、行動につながる。という点につながっています。

ほかにもこまめな視線や作業の変化もあります。最初はプリント、そして教科書、黒板、ホワイトボード、教師、短時間で多くの作業、視線移動を組み込ませることで飽きさせないテンポを作り、流れるようにして授業が進んでいきます。

また、生徒の発言を拾い、それに対してPBSや追質問を行っていました。「松島先生は自分の発言を拾う」と思わせることで、生徒自身も発言するために、まずは「聞く」という姿勢につながっていきます。

こういった、今まで培ってきたものが授業のエッセンスとして組み込まれています。

ですが・・・松島先生の授業を見たうえで僕が一番すごいと思った点はフットワークの軽さです。

そもそもHプリントは今までの松島先生の授業では行われておらず、塩田先生の授業を見て取り入れています。つまり、今まで培ってきたものの中で大切なものはそのままにして、変えるべきものは他の教員から吸収し、すぐに取り入れる。授業改善のフットワークの軽さこそ、松島先生の授業が「熟練の技」と言われる所以です。